

福知山市議会「総務防災委員会」 行政視察研修報告書

- 1 視察日程 令和6年11月6日（水）、11日（月）

- 2 視察先及び調査項目
 - (1) 兵庫県神戸市
「事業系ごみ処理施策について」
 - (2) 滋賀県近江八幡市
「環境エネルギーセンターについて」

- 3 参加委員
森下賢司（委員長）、岩崎崇央（副委員長）、足立伸一、荒川浩司
岡野天明、田中法男、藤本喜章、吉見純男（8名）

- 4 視察経費 総額 101,440円（1人あたり 12,680円）

- 5 調査報告
別紙のとおり

視 察 日	令和6年11月6日（水）
視 察 先	兵庫県神戸市 人口 1,494,280人（令和6年10月31日現在） 市面積 557.05 km ² 議員定数 65人
調査項目 施策・取組等	事業系ごみ処理施策について
視察理由 事前研究等の概要とそれに基づく調査項目・視察先の選定理由等	本市では、埋立処分場延命化実施計画に伴い不燃系産業廃棄物の受け入れ制限が検討されてきたところだが、神戸市の事業系ごみ処理や出し方について学ぶことで本市の参考に出来得ると感じ、視察先に選定した。 視察前には生活環境課から、本市のごみ処理施策について事前学習した。
調査概要 調査項目の施策・取組等の実施状況等	<ul style="list-style-type: none"> ・事業系一般廃棄物は、「可燃ごみ」「資源ごみ」「粗大（不燃）ごみ」「カセットボンベ・スプレー缶」に4分別され、市の指定袋に入れて出すが、収集は市では行わず、一般廃棄物収集運搬許可業者に委託すると伺った。その際の処分手数料は指定袋購入代金に含まれている、とのことである。 ・事業系産業廃棄物（法定20種類）は、市では収集せずに、排出事業者が民間の産業廃棄物処理許可業者と契約して収集してもらい、市布施畑環境センター等の搬入先にて処分をしていることを学んだ。 ・神戸市内の埋立処分場は、現状では十分受け入れに余裕があると伺った。 ・本来なら産業廃棄物だが、継続的に発生せずに少量のごみであれば、量に制限を設けながら受け入れていると伺った。
考察・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・事業系一般廃棄物も4分別した上で指定袋に入れて収集する方法は自己搬入する手間も省け、市民にやさしい施策であると感じた。 ・一方で、事業系一般廃棄物が袋に入りきらずに自己搬入する場合は、分別区分によって搬入施設が異なり、わかりにくいと感じた。 ・産業廃棄物の処理は、排出事業者が個々に産業廃棄物処理許可業者を探して契約する必要がある、なかなか大変であると感じた。 ・大都市の神戸市で埋立処分場の受け入れに十分余裕があることは少し意外であった。 ・本市の事業系ごみ処理施策もしっかりと取り組まれていることが感じられた。
<ul style="list-style-type: none"> ・政策提言への反映 ・本市での施策実現に向けた比較研究（効果及び課題） 	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市の事業系ごみ処理の取り組みは理解できたが、本市との人口規模の差が歴然であり、本市の施策にどこまで参考になるかは不明瞭である。 ・事業系一般廃棄物を市の指定袋に入れて出す方法は、本市でも参考にできるのではないかと感じた。 ・本市は、事業系ごみの搬入について、環境パーク1か所で対応でき、これは神戸市と比較して市民にとっては便利であると認識した。

視 察 日	令和6年11月11日（月）
視 察 先	滋賀県近江八幡市 人口 81,945人（令和6年10月31日現在） 市面積 196.87km ² 議員定数 24人
調査項目 施策・取組等	環境エネルギーセンターについて
視察理由 事前研究等の概要とそれに基づく調査項目・視察先の選定理由等	本市では、一般廃棄物処理基本計画の中間評価を進めているところであるが、運用開始後8年目である比較的新しい環境エネルギーセンターを核とした近江八幡市の家庭ごみを中心としたごみ処理施策が、本市の参考にでき得ると感じ、視察先に選定した。 視察前には生活環境課から、本市のごみ処理施策について事前学習した。
調査概要 調査項目の施策・取組等の実施状況等	<ul style="list-style-type: none"> ・指定ごみ袋には「燃えるごみ」「燃えないごみ」の2種類があり、ペットボトル以外の容器包装プラスチックは可燃ごみとして取り扱っており、ペットボトルは月1回ごみステーション回収していると伺った。 ・持続可能なエネルギー利用の観点から、「資源ごみ集団回収促進補助事業」「生ごみ処理機購入補助事業」「住宅用太陽光発電設備蓄電設備設置補助事業」「省エネ家電への買い替え促進補助事業」を積極的に実施していることに感心した。 ・ごみ分別と出し方冊子が非常に細かく丁寧に解説されており、市外からの転入者からはルールがわかりやすいと好評である旨を伺った。
考察・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトル以外の容器包装プラスチックが可燃物として取り扱われていることは意外だったが、容器包装プラスチックを細かく分別せずに可燃ごみとして出せることは、市民にとっては分別がしやすいであろうし、特に高齢者には優しい対応であり、非常に結構なことだと感心した。 ・さまざまな補助施策を展開して、ごみの減量化や再生可能エネルギー利用とエネルギー効率向上への取り組みを実施されており、素晴らしい。 ・ごみの出し方と分け方が非常に細かく分別されているが、市民の困惑などはほとんどない旨を伺い、わかりやすい冊子で市民理解を求めることは非常に重要だと感じた。
<ul style="list-style-type: none"> ・政策提言への反映 ・本市での施策実現に向けた比較研究（効果及び課題） 	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の家庭ごみ処理施策もしっかりと展開されていると感じた。 ・近江八幡市のごみの分別と出し方冊子は非常に見やすく、またわかりやすく作成されており、本市の今後の冊子編集にも十分参考になる。 ・昨今の課題として、ネット通販サイトでの購入物品のごみ分別において、どの分類に該当するのかわかりにくい例が増えているおり、対応に懸念がある旨を伺い、これは本市にも十分あてはまる今後の大きなテーマであると認識した。